

関電は約束守れ！ 老朽3原発をただちに止める！ 関電本店抗議行動

日時：1月12日（金） 12:00～

場所：関西電力本店前（大阪市北区中之島）

主催：老朽原発うごかすな！実行委員会

（お問合せ：090-1965-7102）

高浜1号機（最老朽原発、運転開始後49年）、
高浜2号機（運転開始後48年）を停止せよ！

美浜3号機（運転開始後47年、定期点検中）を
再稼働するな！（関電は1月中旬再稼働を画策）



**約束
守れ!!**

多数ご参加ください！

関電は「2023年内に使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」とした約束を反古にしています。 **約束の履行と全老朽原発の廃炉を求めましょう！**

元旦に発生した能登大地震は「今年こそ、原発、核施設を全廃せよ」と警告しているようにも思えます。

さて、権政田岸や電力会社は、能登震災の悲惨を目の当たりにしても、「原発依存社会への暴走」を改めようとはしません。

関電は、運転開始後47年になろうとする老朽原発・美浜3号機を2021年来稼働させ（現在は定期点検中）、昨年、49年超えで最老朽な原発・高浜1号機、48年超えの老朽高浜2号機の再稼働を強行しました。さらに、定期点検中であつた高浜3号機（運転開始後38年）を、12月22日再稼働させ、来る1月中旬には美浜3号機を再稼働させようとしています。

その関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵地を2023年末までに福井県外に探す。探せなければ、老朽原発を停止する」と約束していますが、約束履行の見通しが無くなり、切羽詰まって「保有する使用済み核燃料のわずか5%のフランスへの搬出」や「上関での中間貯蔵地建設調査」などの小手先の奇策と詭弁を弄して、昨年末で、約束を反古にしました。人々を愚弄するものです。

一方、使用済み核燃料の行き場に関して、福井県から説明を求められた関電は、10月10日、「使用済み核燃料対策ロードマップ」を発表し

ました。このロードマップで、関電は、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込み、いかにも近々使用済み核燃料の福井県外搬出が可能であるかのように見せかけています。しかし、いずれも実現の可能性はありません。「絵に描いた餅」です。

それでも、関電は「使用済み核燃料搬出の円滑化のために、原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討する」とし、福井県内での乾式貯蔵に向けての布石を打ちました。

関電の燃料プールは3～7年後に満杯になって、原発を停止せざるを得なくなるため、プールに空きを作ろうとする策略です。福井県知事は、わずか3日後の13日、これを容認しています。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

何としても関電と福井県に当初の約束を履行させ、全ての老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、1月12日に、表面にご案内の集会を開催して、関電に、当初の約束を行履して、老朽原発・高浜1、2号機を停止し、美浜3号機の再稼働を断念して、発原朽老全の炉廃を決定するよう求めます。

皆様のご参加、ご支援をお願いします。